

第1回富山県医療費適正化計画検討委員会 議事要旨

1. 開催日時：令和5年9月1日（金）13：00～14：30

2. 開催場所：富山県民会館701号室

3. 出席者

（1）出席委員：18名

青山委員、稲村委員（代理）、大西委員、角田委員（代理）、金山委員、亀山委員、川端委員、須河委員、関根委員、中村委員、西尾委員、浜守委員、藤井委員（代理）、藤木委員、舟橋委員、松井委員、村上委員、山崎委員

（2）事務局：14名

有賀厚生部長、川西厚生部次長、守田厚生部次長、今井参事・厚生企画課長、牧野厚生企画課医療保険班長 ほか

4. 内容

（1）委員長及び副委員長の選出

・委員長に中村委員、副委員長に村上委員を選出。

（2）事務局

・「第3期富山県医療費適正化計画の概要について」「第4期富山県医療費適正化計画について」「第4期富山県医療費適正化計画の骨子（案）」「計画策定スケジュール（案）」について配布資料に基づき説明。

（3）委員等の主な意見

【委員】

・マイナ保険証により、お薬手帳を携帯していなくても、処方されている薬の状況が分かる。余計な薬をもらう必要がなくなるので、医療費適正化計画でもマイナ保険証のPRにしっかり取り組んでいただきたい。

【委員】

・今後、医療、介護の分野で一番問題なのは人手不足であり、ドクターの方の働き方改革が進む中、マイナ保険証をはじめとした電子処方箋、オンライン診療、デジタル田園都市国家構想等を含めた医療DXをいかに早く富山県に定着させるかが重要。そして、これが今後の医療、介護費の適正化に大きく

資するはずであり、国の方針にも明記してある。是非本計画の中にも明記いただきたい。

- ・これまでの医療費の適正化の効果を検証するために会議を1年に1回は開催していただきたい。その上で、県民全体で、健全な危機感を共有するためニュースリリースなどで市町村別実績を公表いただきたい。
- （事務局回答）保険者協議会が法律改正により、計画の策定だけでなく、実績の評価にも携わるとされたところ。実績の評価に携わるということは、計画の進捗も管理していかなければならないと考えている。また、本検討委員会で実績にも携わっていただくかは検討してまいりたい。

【委員】

- ・コロナにより子供の肥満が増えるなど、新たな健康問題が出ている。第4期では、こうした新たな健康問題にしっかり取り組んでいただきたい。
- ・健康診断の受診率は市町村によって差がある。また、喫煙率をみても西部の地域のほうが喫煙率は高く、東部のほうが喫煙率が低い。生活習慣をみても、運動不足は山の地域の方が高く、睡眠不足は西部のほうが多い。こうした地域差をなくしていくことが、医療費適正化を考えるうえで重要。
- （事務局回答）地域差について、どういったことが計画の中に盛り込めるのか検討してまいりたい。

【委員】

- ・この検討委員会では策定までを担当し、その後の評価は保険者協議会に大きな期待がかけられている。今回の国の資料にもあるが、保険者協議会に医療の担い手等に参画いただくような形で、計画の検証ができる体制にならないとなかなか難しいだろう。保険者協議会のやり方も、検証の役割を担えるよう真剣に考えていきたい。
- （事務局回答）保険者協議会への医療の担い手等の参画の在り方については、県と共同事務局である国保連とも相談しながら検討してまいりたい。

【委員】

- ・がんの要因は、1つめは感染症で、例えば胃がんの原因となるピロリ菌は除去すれば確実に胃がんが減るといわれている。また、子宮頸がんの原因となるヒトパピローマウイルスは、ワクチンを接種すれば、確実に減らすことができるというエビデンスがある。がんのもう2つめの要因は、喫煙。禁煙運動を徹底できれば、病気の方を減らし、医療費を減らせるという研究が出ている。がんの3つめの要因はアルコールやメタボ。こうした3つの要因を防げるよう、しっかりやっていただきたい。

→（事務局回答）県は、現在、この医療費適正化計画だけではなく、医療計画や健康増進計画など、医療や健康にかかわる各種要因に関する計画策定の分析を進めている。今後、その状況について要因分析し、その対応を関係課で連携し、取組の方針をまとめてまいりたい。

【委員】

- ・医者の方が、重複多剤による副作用を考えて、最低限の薬を出すという意識が大事。

【委員】

- ・ポリファーマシー対策として、近年色々な事業をしている。複数の処方医の方がいらっしゃるの、そういった方々との連携がない限りは、なかなか簡単には減らせないというのが実感。効果的な進め方を模索していきたい。

→（事務局回答）県では、令和3年度からモデル的にポリファーマシー対策に取り組んでいる。まだまだ発展途上であり、今後どのようなやり方がふさわしいのか、改善できるかということ薬剤師会ともご相談しながら取組みを進めてまいりたい。

【委員】

- ・予防接種に関して、例えば高齢者の肺炎球菌ワクチンや带状疱疹ワクチンなどは、あまり進んでいない。ワクチン助成は、将来的には非常に医療費の削減にもつながるといようなデータも出ているので、しっかり取り組んでいただきたい。

- ・医療費適正化はとても大事だが、患者さんのためになること、患者さん自身がよりよいADL・QOLを保持していけるような方向に進むことが土台になってくると思うので、目先のことだけではなくて、将来を見据えたような内容も考えていただきたい。
 - ・後発医薬品については、数値目標80%が先行しており、供給が安定していない。来年度国において数値目標の見直しが行われるとのだが、うまく解消できる方向に進めていただきたい。
- （事務局回答） これまでも医師会のご支援をいただきながら、正しいエビデンスに基づいた予防接種政策を進めてきた。正しい情報を県民の皆さんに広報し、少しでも接種率が上がるような取組みをしていきたい。